

2. SR 新生物 (C 血液系悪性腫瘍)

文献

Felbel S, et al :Yoga in addition to standard care for patients with haematological malignancies.
Conchrane Datebase Syst Rev. 2014 Jun 12;(6):CD010146. PubMed ID:24919720

1. 背景

血液系腫瘍は白血病、リンパ腫、骨髄腫を含む、骨髄やリンパ細胞の悪性腫瘍だが、これらの病気の身体的、心理的症状の補完療法としてヨガが注目されている。しかし、血液悪性腫瘍の患者へのヨガの効果は不明である。

2. 目的

血液悪性腫瘍患者の標準的な治療の補完としてヨガの効果を評価する。

3. 検索法

二人のレビュー著者がそれぞれ以下のデータベース検索結果をスクリーニングした。

- Conchrane Central Register of Controlled Trials
- Ovid MEDLINE (1950 to 4th February 2014)
- 以下の団体の年次会合
 - American Society of Hematology (ASH) (2005-2013)
 - American Society of Clinical Oncology (ASCO) (2005-2013)
 - European Haematology Association (EHA) (2005-2013)
 - Global Advances in Health and Medicine (2011-2014)
- 進行中のトライアルのデータベース検索
 - Meta-register of controlled trials: <http://www.controlled-trials/mrct/>

4. 文献選択基準

悪性血液腫瘍の標準的治療のみのケースと標準治療の補完としてのヨガに関する RCT。
ヨガのタイプは問わない。

5. データ収集・解析

ストレス (distress)、疲労 (fatigue)、不安 (anxiety)、抑鬱 (depression)、睡眠の質について評価した。健康に関する QOL(HRQoL)、全生存率 (OS)、有害事象 (AE) については該当するデータがなかった。

6. 主な結果

データベース検索より 149 の関連研究が選択されたが、うち 139 は重複または選択基準を満たさないため除外された。残り 15 のうち基準を満たしたのは一件のみだった。
主な研究結果：リンパ腫患者に対し 7 週間のチベットヨガを併用した。標準治療群、標準治療にヨガを併用した群ともに化学療法を受けている患者と受けていない患者が含まれている。ヨガを併用した群が、標準治療単独群より疲労、不安、抑鬱を改善するというエビデンスはなかった。ただし、睡眠の質はヨガの併用によって向上した。健康に関する QOL と全生存率、有害事象に関する情報はなかった。

7. レビュアーの結論

血液系悪性腫瘍に関するヨガの効果について十分なデータはなかった。したがって、血液系悪性腫瘍のヨガの役割は不明である。

8. 要約者のコメント

今後の血液系悪性腫瘍に関するヨガの研究に期待する。

平澤 昌子 岡 孝和 2016 年 11 月 30 日